

四十年の歩み



浅野寿美子

「四〇年の歩み」を書くように言われて、しみじみと指折り数えてみました。大正十三年に女子師範学校を卒業し、一年間小学校に勤務、大正十四年から母校に初めてできた付属幼稚園に保母兼訓導として赴任し、昭和十六年に市立第三幼稚園の園長となってから現在までですから、もう三十八年にもなります。

無我夢中にこの道に精進してきました私は、こんなに長い年月がいつのまに過ぎたのかと我ながら驚いたりあきれたりしています。先生になりたいと思ったわけでもなく、ふっとしたきっかけで師範学校に入學し、卒業のときも義務年限の三年が自分につとまるかしらと不安がっていた私ですか

ら、よくまあここまで勤務することができたと思うのです。年月にはさまざまなできごと——うれしかったこと、苦しかったこと、悲しかったことなどが数多くありましたが、今ではみんな楽しい思い出となって私の心を暖めてくれます。幼稚園にまわりました初めの一年は、幼児教育について専門の指導をうけていませんでとても心配でしたが、しだいに興味がでてまいりましたので本腰をすえて勉強しました。ですから結婚後は家事に煩わされぬため、私の養母の主人の母や姉に家にきてもらい、私は幼稚園のことに専念できるようにしました。こうして私のすべてが幼稚園、幼稚園にあけくれする生活がつづきました

が、その間まず第一に健康であったこと、教師としての責任を全うしたこと、誠意をもって努力したことなど、一貫した精進が私をここまで引きあげてくれたのだと信じます。お話ししたいことがあまりたくさんあって、何から話したらよいのかわからなくなりそうですので、私の幼稚園生活を大きく三つにわけて、おもなことだけのべてみることにします

第一期は、大正十四年から昭和十六年四月までです。

これは私の温室時代とも申しますか、先生や先輩に守られて思うぞんぶん勉強したり、遊んだりして楽しかった期間です。二年保育二組幼児数五〇名という幼稚園で、しかもえらばれたこともばかりですから、一人ひとりのこどもにしみ通る家庭的なふん囲気でした。ことに母校ですから気兼ねもなく、のびのびした気持で研究ができました。先生の指導もありますし講習会や研究会の開催などもありますので勉強せずにはいられません。当時お茶の水で倉橋惣

三先生の講習会が毎年ありましたので、楽しみにして夏休みには上京しました。園舎は保育室2、遊戯室1、職員室1でしたが設備は不十分でした。そこで設備の整備をするため、つぎつぎといろいろなものをつくったり、改善したりしていきました。そのおもなものは、運動具のいろいろ、池、鉄橋、山、トンネル、砂場、便所の改善（浄化槽をつくり水洗式にする）、手洗場、給食の実施に伴う調理場、その他備品などたくさんありますが、こうして環境をととのえることに力をそそぎました。また当時は視聴覚教育の研究たけなわの頃でしたから、付属小学校の先生たちに刺激されて、私も観察の資料となるスライドや8ミリのフィルム作製など日曜も返上して数多くつくりました。この時代に一つ忘れることのできないことは、県から愛知県保育会の研究会に助成金が初めて出されたことです。昭和七年だと思いますが、小学校校長さんから県から補助金が貰えるといわれて、何度もお願ひに出てもどうしてもだめでした。校長

さんには叱られるし、泣けてくるし、困ったあげく、知人に紹介してもらって、夜分郡部の収入役さんの自宅をたずねて近くまで帰られるのをまっけて必死に陳情、やっと金五十円也の助成金を貰いました。しかし、これが県からの補助金の初めでした。

第二期は昭和十六年、名古屋市立第三幼稚園の園長として赴任してから昭和二十年終戦までです。

温室育ちの私が三十五才で初めて園長として社会へ出たのですから、「石の上にも三年」という諺のように、三年間じっくり勉強しようと固い決心をしました。八学級という大きな幼稚園で幼児数も二八〇名位でしたからたいへんでした。まもなく大東亜戦争というかつて経験したことのない事態となり、いかにして子どもを守るかということに専念しなくてはならなくなりました。さらに付設戦時保育所ができて幼稚園は一時休園するという状態になりました。そして昭和二十年五月十四日何一つ残らず戦災によって焼失してしまい、職員や小使

さんは疎開したり、いなかへ帰ったりして私一人残されて終戦を迎えました。第三期は、昭和二十一年から現在までです。

復興建設時代、幼稚園振興のための努力時代とも申しましようか。「国家の再建は幼児教育に全力をかける他に道はない。これが私に与えられた使命だから命をかけて努力しよう」と、当時私は街に遊んでいることものをながめて必死の覚悟をしました。そしてそのときから私のひたむきな精進がはじまりました。以来十七年間自分の幼稚園のこと、市内の幼稚園のこと、県下の幼稚園のこと、東東地区、全国といろいろのしごとをしてまいり幼稚園教育の振興と向上にむかって私なりの努力をつづけてきました。つぎにその一、二についてのべてみることにします。

昭和二十一年のはじめ、とにかく幼稚園を開くことが第一と場所をさがして走り廻り、ようやく駅近くで焼け残った広井国民学校の教室を借りることができてここに幼

稚園を再開しました。設備はもちろん、費用も全くありませんので借りてまわってようやく集め、こどもは町内会長さんに依頼して回覧板をまわして募集しました。昭和二十二年には父兄の要望にこたえてようやく江西小学校の教室を借りて市立第三幼稚園の分園をつくりましたが、しだいに希望者が多くなり、本園、分園合せて一組という大世帯となつてしまいました。昭和二十四年園舎建設を目ざして復興後援会を組織し、二五年には一部ではありますが園舎の建築ができました。

その後モデル幼稚園候補校として文部省から指定をうけ、また全国幼稚園施設協議会（創立当時は全国モデル幼稚園協議会）を結成して毎年研究大会を開き研究の成果を発表し合ったり、園舎の増築や改善をして、教育の効果を高めるためにはどのように施設設備をとのえたらよいかという研究をつつけてまいりました。また昭和二五年に第一次建築の竣工式、同二七年に第二次建築の竣工式を行いました。なお、この

間に園舎建築ができるまでの父母や市当局その他の方々の協力や職員努力をまもめて「あゆみ一号」を、小学校の不備な設備での保育や新しい園舎での指導の結果をまとめた「保育の実験一号」を刊行しました。

また昭和二七年の竣工式の翌日第一回全国モデル幼稚園協議会研究会を当園で開催し、昭和三〇年に創立四〇年、復興一〇年の記念式をあげました。この記念事業として鉄筋建ての書庫、休養室、衛生室を建設する一方、「あゆみ二号」（創立当時から記録のまとめ）「保育の実験二号」を刊行し、全国に呼びかけて記念研究会を開催して公開保育をいたしました。昭和三六年第一回全国幼稚園施設研究大会が名古屋にもたれ、当園も分科会場になりましたが、その前日に創立四五年を祝う集いを行ない、幼稚園が無一物から現在にいたるまで、ご指導、援助して下さいました方々と語り合う会をもちました。そして記念として「あゆみ三号」と、三年保育を中心として「友たちと遊ぶこどもの姿」（フレール館発行）

の刊行をしました。

そしてこの間、常に後輩をそたてることに心がけ、研究会、講習会、視察はもとよりできるだけ研究の機会をつくり、たえず勉強させるように努力してきました。

なお、私事ですが昭和二五年文化の日に名古屋市教育委員会から優良教員として表彰をうけ、昭和三六年にニュートリーで開かれた第一〇回世界教育者会議に幼稚園代表として出席し、さらに、海外諸国を視察して大いに視野をひろめることかてきました。また昭和三七年十一月七日には思いがけなく文部大臣より教育功労者として表彰をいたたく光栄に浴し感激しております。永い間未熟な私を指導して激励してくださった多くの方々に心から感謝を申し上げて、今後一層、研さんに、幼稚園教育の振興にまい進したいと存じます。

（名古屋市立第三幼稚園）

* * *